

GMどうみん議会

—RIRiC版GM市民陪審—

日 時

第1日 平成23年10月22日(土) 9:00~18:10

第2日 平成23年10月23日(日) 9:00~17:30

会 場

北海道大学遠友学舎

札幌市北区北18条西7丁目

検討課題

もしも、今後北海道で遺伝子組換え(GM)作物が栽培されるようになる場合があるととして、

1. どのような機能をもった作物なら栽培が認められるでしょうか。
2. どんな条件であれば栽培しても良いでしょうか。

主 催

GMどうみん議会実行委員会

(協力) 北海道大学大学院農学研究院

*GMどうみん議会は、科学技術振興機構社会技術研究開発センターH21年度採択研究「アクターの共同による双方向的リスクコミュニケーションのモデル化研究」(RIRiCはなしてガッテンプロジェクト)の一環として実施しています。

1. GMどうみん議会実行委員会委員長(主催者)あいさつ

皆さま、お忙しい中お集まりいただき、まことにありがとうございます。GMどうみん議会は、遺伝子組換え作物の栽培を題材に予め用意された課題について、資料を読み、専門家の話に耳を傾け、討論者同士が話し合い、課題に対する回答を出すという会合です。GMどうみん議会実行委員会が主催します。

専門家ではない素人の一般市民が生活者の視点から議論に参加するというのが、会議を行う上で重要な仕掛けです。長丁場のどうみん議会ですから、どうかリラックスしてご参加下さい。

なお、今年度、北海道GM条例(北海道遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等防止条例)は二度目の見直し時期を迎えます。GMどうみん議会実行委員会では、結果を公表するとともに、北海道(農政部)にも提言として手渡す予定です。GMどうみん議会は、「RIRiCはなしてガッテンプロジェクト」の研究の一環として行われる社会実験の場ではありますが、条例見直しの議論を実験的に行う場ではないことを、予め申し述べておきます。

飯澤理一郎

GMどうみん議会実行委員長

<RIRiCはなしてガッテンプロジェクトとは>

正式名称を「アクターの協働による双方向的リスクコミュニケーションのモデル化研究」と言い、説得ではない納得に基づく、食の安全・安心に関する市民参加型リスクコミュニケーションの可能性を探求しています。科学技術振興機構社会技術研究開発センター(JST/RISTEX)の「科学技術と社会の相互作用」プログラムによる平成21年度採択研究(平成24年9月終了)で、研究代表者は飯澤理一郎(北海道大学大学院農学研究院教授)です。大学以外の色々な方達とともに活動をしています。これまでBSE全頭検査問題やGM作物を題材に、熟議の場を作ってきました。

2. GMどうみん議会の開催趣旨

北海道GM条例が施行されて6年になりますが、これまでGM作物が栽培されたことはありません。しかし、食用にとどまらず医療用、飼料用、工業用、燃料用として利用されるGM作物が増加している近年の世界的な情勢を考えると、北海道でも今後GM作物が栽培される可能性は否定できません。

そこで、わたしたちは今後GM作物が栽培されることになった場合を想定し、GMどうみん議会を開催します。

GM作物の安全性は、国が認めるところではありますが、未だ道民の約8割が食べることにに対する不安をもっています。また、意図せざる生態系への影響も懸念されている現状があります。わたしたちの生活に深く関わるGM作物の問題は、行政や専門家だけでなく、さまざまな立場にある道民も共に考え、判断する必要があるのではないのでしょうか。

GMどうみん議会でまとめられた結果は、北海道に提出します。この結果が、今年度のGM条例見直しの際の検討事項となることを期待しています。

3. GMどうみん議会での検討課題

もしも今後北海道で遺伝子組換え(GM)作物が栽培されるようになる場合があるとして、

1. どのような機能をもった作物なら栽培が認められるでしょうか、
2. どんな条件であれば栽培しても良いでしょうか。

4. GMどうみん議会の仕組み

(1) 市民参加の意義

新しい技術が社会の中に導入されようとしたり、あるいはされたりした時に、社会の中で論争が起きる場合があります。BSE(狂牛病)の全頭検査をどうするかといったことや、GM作物やGM食品をどう扱うかといった問題です。食品中の残留放射性物質の基準値の問題は、北海道の私たちにとっても無視できない問題です。しかし、いったい誰が判断を下すのでしょうか。これは難しい問題で、これまでは科学者や行政などの専門家に判断が委ねられてきました。

しかし近年、市民による熟議という考え方が人々の間に広がり、行政側も市民の声を反映するよう試み始めています。専門家ではない人々が議論を行うことで、科学者や行政だけでは見えてこない、多様な問題や課題に光が当てられることとなります。行政側も15人～100人規模の市民会議を開催し、市民の意向を深く知ろうとするようになっていきます。熟議の場を作る手法は様々ですが、札幌市では路面電車の延伸をめぐる100人規模の市民会議が開催されたり、北海道でも公募による討論者が議論したGMコンセンサス会議が開催されたりしました(2006年11月～2007年2月)。GMどうみん議会も市民による熟議の流れに連なります。

(2) 手法について

GMどうみん議会の仕組みは、電子電話帳から無作為に選ばれた3,000人の道民にアンケート調査票を送って、返送された中から参加希望の方たちを性別、年齢、地域バランスがとれるようにして16人を選び、その人たちに専門家からの情報を聴きとってもらいながら、グループや全体での討論をしてもらい、課題に対する回答をまとめ、公表してもらおうというものです。討論者の他に、議論の進展を支援する進行役、情報を提供する専門家証人、公正な会議を準備し会議全体が滞りなく行われる状況を作り出し、チェックするための監督委員会から成り立っています。この全体のプロセスを動かすのが、実行委員会です。

この手法は、イギリスで2003年に行われたGM市民陪審参考にしています。市民陪審とは、12～25人程度の市民の討論者が、テーマに関する様々な立場の専門家の証人に話を聞き、質問したことをもとに討議し、判決文として研究開発や政策に関する意見や提言をまとめるものです。

ただ、GMどうみん議会はYESかNOを求めるだけの裁判とは違い、実行委員会が設定する「検討課題」に回答するという形にしました。提供を受け、進行役の支援を受けながら討論課題についてグループ討論と全体討論を行い

(3)GMどうみん議会参加者の構成

◇討論者

討論者の役割は、討論を通してまとめられた意見を公表することです。専門家から情報提供を受け、進行役の支援を受けながら討論課題についてグループ討論と全体討論を行い、「意見」をまとめます。合意されたことを記者発表の場で読み上げて公表します。なお、合意できなかったことについては、読み上げの最後に付帯意見として添えます。

Aグループ

女性 道央(空知)
男性 道央(石狩)
女性 道央(石狩)
男性 道南(渡島)
女性 道東(オホーツク)
男性 道東(オホーツク)

Bグループ

男性 道央(石狩)
女性 道央(石狩)
男性 道央(後志)
女性 道北(上川)
男性 道東(釧路)

Cグループ

男性 道央(石狩)
女性 道央(石狩)
女性 道南(胆振)
男性 道北(上川)
女性 道東(十勝)

◇監督委員会

監督委員会の役割は、GMどうみん議会の方向性や運営が偏らないようチェックすることです。開催趣旨、討議する項目や会議設計を確定し、ハンドブックや資料の内容が偏らないよう気をつけ、専門的アドバイスを受けたものを最終的に承認します。進行役、専門家証人、討論者を確定します。当日は、監督委員会委員として公正中立に会議が進められているかを見てもらいます。いわばお目付け役です。

- 池田 隆幸 (食品衛生学:藤女子大学 教授)
- 大川三樹彦 (獣医師:さっぽろ獣医師会 副会長)
- 貴島 祐治 (育種学:北大農学研究院 教授)
- 鈴木 一人 (国際政治学:北大公共政策大学院准 教授)
- 田中いずみ (コープさっぽろ組合員活動部理事)
- 中村由美子 (酪農家、女性農業者ネットワークきたひとネット事務局長)
- 森 久美子 (作家、農林水産省食料・農業・農村政策審議会委員)

◇専門家証人

専門家証人の役割は、討論課題に則した情報提供を行い、討論者の質問に答えます。討論者が討論している最中に出てきた問題についても、求められれば分担して答えます。討論者全員と専門家全員による意見交換の場が設定されていますので、討論が深まる形で参加します。なお、討論者と同じように二日間連続して参加します。

1. 田部井 豊先生 (独)農業生物資源研究所 遺伝子組換え研究推進室 室長
『分子生物学に支えられた農業生物資源の利用と将来』(2011)などの著書があり、今回は遺伝子組換え植物を研究開発する側として、「GM作物の研究開発前線を紹介する」という情報提供です。
2. 大澤 良先生 筑波大学生命環境科学研究科 教授
『品種改良の世界史 作物編』(2010)などの著作があり、『植物育種学辞典』編纂に関わられ、今回は「大規模栽培になったときの環境影響とはどういったことか」という視点での情報提供です。
3. 柳沢 朗先生 北海道総合研究機構農業研究本部 中央農業試験場作物開発部長。
前任地の北見農業試験場では小麦の新品種育成に携わり、ホクシンやきたほなみなどを研究開発されました。今回は、「非GM作物を用いた交雑に関する調査の研究」という視点での情報提供です。
4. 山口 富子先生 国際基督教大学教養部 アーツアンドサイエンス学科
上級准教授。編著に『萌芽する科学技術 先端科学技術への社会学的アプローチ』(2009)があり、今回は「GM作物はどう語られてきたか(メディアと消費者の反応)」という視点での情報提供です。
5. 立川 雅司先生 茨城大学農学部 教授
著作に『カナダ農村3農場200年の軌跡』(2008)、『遺伝子組換え作物と穀物フードシステムの新展開(2003)』があり、今回は「規制と共存の考え方を中心に各国の栽培状況」の情報提供です。
6. 遠藤 靖彦先生 JJAとうや湖 営農販売部 クリーン農業推進課 課長
全国農業協同組合中央会会長賞(2008)。とうや湖クリーン農業協議会は第3回コープさっぽろ農業賞コープさっぽろ会長賞を受賞しました(2006)。今回は、「YES! clean 農業」を推進する中での体験に根ざした情報提供です。

◇進行役

進行役の役割は、議論が円滑に進むことを促すことです。討論者が議論している内容に踏み込むようなことはしません。全体をまとめるのが総合司会で、グループ討論を担当するのがグループ司会です。司会補佐はグループ討論や全体討論で討論者が議論やまとめをする際の文字化や文章化を支援します。グループ司会補佐は、進行役の一員として円滑な進行を助けます。

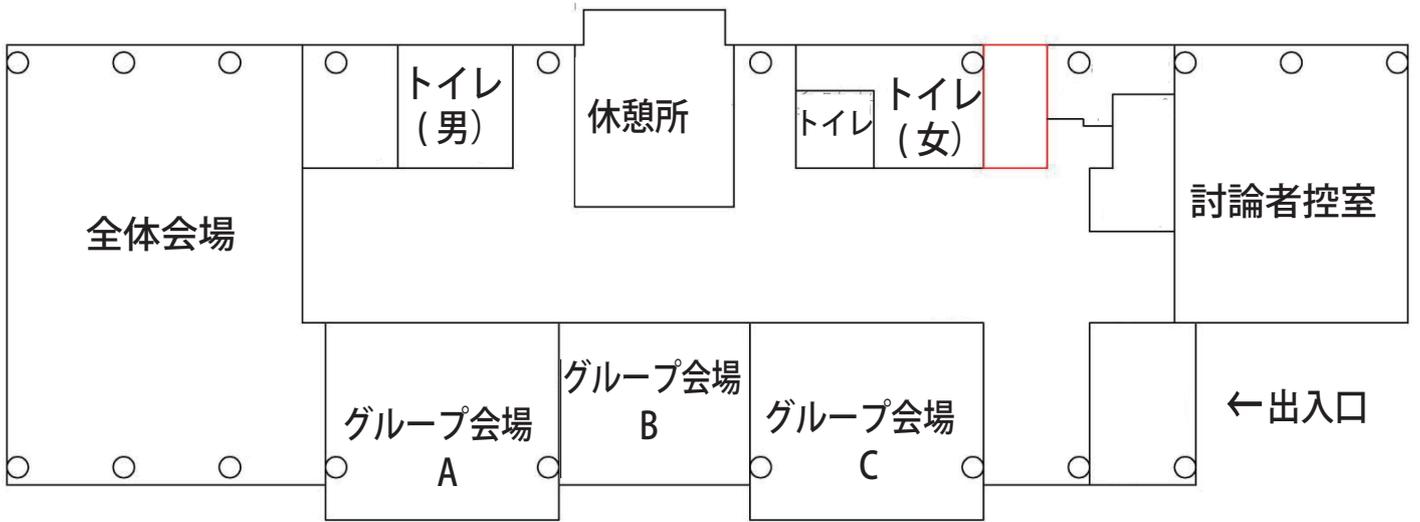
総合司会	吉田省子（GMどうみん議会実行委員会）
グループ司会	池野富美子（元コープさっぽろ組合員活動部理事）
	竹田加代（札幌消費者協会食と健康を考える会代表）
	吉田陽子（管理栄養士、フードマイスター）

◇実行委員会

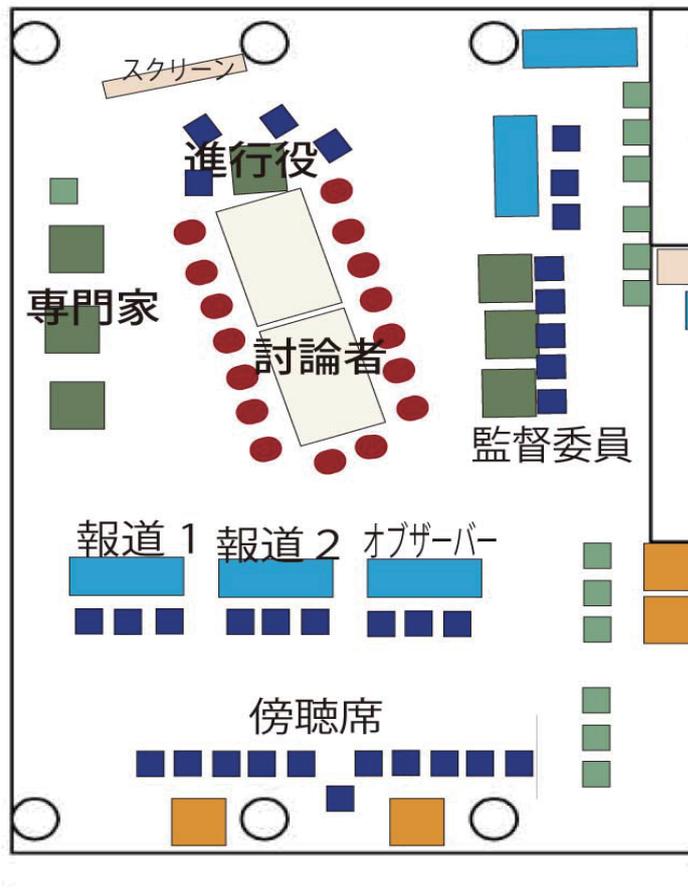
実行委員会の役割は、GMどうみん議会を主催することです。日程と会場を確定し、討論者の選出方法を確定し、会議目的を定め、討議する項目や会議設計の方向性を定め、進行役の性格を定め、監督委員会委員を選出します。事務局を設置し実行委員会と監督委員会を補佐させます。事務局は、会議開催にいたるまでの諸事を担い、専門的アドバイスを多方面に求めながら、ハンドブックや資料等の草案準備をします。

実行委員長	飯澤理一郎（北大農学研究院）
副委員長	上田哲男（北大電子科学研究所）
相談役	栃内新（北大理学研究院）
委員	信濃卓郎（（独）北海道農業研究センター）
	芝池博幸（独）農業環境技術研究所）
	山際睦子（北海道栄養士会食育推進員会、委員長）
	大原真紀（北大農学研究院）
	平川全機（北大農学研究院）
	吉田省子（北大農学研究院）

遠友学舎内部図



全体会場図



プログラム

10月22日(土)

9:00~9:10 開会

9:10~9:40 自己紹介と検討課題の確認

9:40~9:45 休憩

9:45~11:30 専門家による情報提供1「科学の側から」

2回に分けて全員で6人の専門家の話を聞きながら遺伝子組換え作物に関する情報を整理していきます。それぞれ20分間の話の後に10分間の質問の時間があります。話された内容について分からないことや疑問点があれば、追加説明を求めることができます。

9:45~10:15 作り出す側としてGM作物研究開発の前線を紹介

田部井 豊氏(農業生物資源研究所遺伝子組換え研究推進室 室長)

10:15~10:45 大規模栽培になった時の環境影響とはどういったことか

大澤 良氏(筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授)

10:45~11:15 非GM作物を用いた交雑に関する調査の紹介

柳沢 朗氏(北海道総合研究機構農業研究本部中央農業試験場 作物開発部長)

11:15~11:30 専門家の話を聞いて分かったこと、疑問、感想などを書き出す

11:30~11:40 休憩

11:40~12:00 専門家への質問1

「専門家による情報提供1」での疑問や分かりにくかったことについて専門家が説明します。

12:00~13:00 昼食

13:00～14:45 専門家による情報提供2「社会学や現場から」

- 13:00～13:30 GM作物はどう伝えられてきたか(メディアと消費者の反応)
山口 富子氏(国際基督教大学教養部 上級准教授)
- 13:30～14:00 規制と共存の考え方を中心に各国の栽培状況を紹介
立川 雅司氏(茨城大学農学部地 教授)
- 14:00～14:30 農の現場から見る: YES! Clean農業を推進する中での体験
遠藤 靖彦氏(JAとうや湖営農販売部クリーン農業推進課 課長)
- 14:30～14:45 専門家の話を聞いて分かったこと、疑問、感想などを書き出す

14:45～14:55 休憩

14:55～15:15 専門家への質問2

「専門家による情報提供2」での疑問や分かりにくかったことについて専門家が説明します。

15:15～15:20 全体会議場からグループ会議場へ移動します

15:20～17:10 グループ討論1

専門家から得た情報を整理しながら、5,6人のグループで検討課題について話し合います。検討課題ごとに全員が意見を述べ、キーワードを紙に書き出します。専門的な内容について確認が必要な場合は、専門家証人を質問することができます。

15:20～16:50 検討課題ごとに意見を述べ、書き出しながら話し合う

16:50～17:10 まとめの議論

17:10～17:25 休憩(ちょっとひと息)

17:25～18:10 全体討論1

グループ討論の結果をもとにして全員で話し合い、検討課題ごとに意見を集約します

17:25～17:55 グループごとにまとめた結果を発表し、他のグループからの質問を受ける

17:55～18:10 意見の集約

18:15 終了

10月23日(日)

8:45～ 受付

9:00～10:00 専門家との意見交換

1日目の全体討論の結果をもとにして、討論者と専門家による意見交換をおこないます。

10:00～ グループ会場へ移動

10:05～11:45 グループ討論2

全体討論1の結果や専門家との意見交換をもとにして、再度5,6人のグループで話し合います。専門的な内容について確認が必要な場合は、専門家証人を呼んで質問することができます。

10:05～11:35 全体討論1のまとめをもとに各検討課題について議論を深める

11:35～11:45 検討課題ごとに意見を集約する

11:45～11:55 休憩

11:55～12:05 全体での確認

グループごとに討論の結果を発表します。これが草案のベースになります。

12:05～12:50 昼食

12:50～14:00 全体討論2

検討課題1の提言の草案を作ります。

12:50～13:50 課題1の草案のベースをもとに議論

13:50～14:00 まとめた内容を文章にする

14:00～14:05 休憩

14:05～15:15 全体討論3

検討課題2の提言の草案を作ります。

14:05～15:05 課題2の草案のベースをもとに議論

15:05～15:15 まとめた内容を文章にする

15:15～15:35 休憩

15:35～16:10 まとめの議論

草案の原稿を検討し、提言を完成させます

16:10～16:30 プレス発表準備

16:30～17:00 プレス発表

まとめた提言を報道関係者に向けて発表し、質問を受けます

17:10～17:30 閉会

17:30 すべて終了(おつかれさまでした!)